

4月2日(日) まいど！倫理号です。今週の倫理の例へ 今週はあります、編み物のように元にかえす事から始めます。後半庄りが本であります。

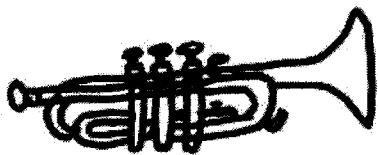
## 今週の倫理 1023号 あります。勇気をもつて一言 2017.4.1 ~ 4.7

四月のテーマ  
再起

### やり直しに もつと 勇気を

丸山竹秋

毎月第一週に配信する「今週の倫理」では、倫理研究所会長・丸山竹秋（一九二一—一九九九）のことばを掲載します。



え・浅妻健司

ある朝、会社の廊下で、偶然そのTと顔があった。Tは彼女の意中を知るよしもなく、声をかけて挨拶をしてきた。しかし彼女は、にこりともせずに、やり過ごした。

その昼すぎ彼女が、与えられた重要書類の整理の仕事をしているとき、Tが故意にさし出口をきて、いろいろ余計なことを言つてきた。そのため仕事はいつもより手間じつた。彼女はいら立つた。そのせいか、二重に整理をまちがえて、上役から、明日もう一回やり直すように注意された。

彼女は、ぶんぶんして家に帰り、明日皆の前でTの非を訴えてやろうかと思った。しかしよくよく考えてみると、悪いのは、こちらである。自分の勝手な感情で、人を好悪し、挨拶すらしなかつたのだ。自分からわびるべきだ。だが、そ

れには、自負心が許さない。

その翌朝、またしても廊下の同じところで、ぱつたりと顔をあわせてしまった。その瞬間彼女は、睡がはるほど嫌いな一人である。

「お早うございます」

と挨拶をしてしまったのである。Tは信じられないといったようすだったが、それでもさすがに会釈だけは返してきた。

いちど挨拶をしてしまうと、心はずつかり楽になった。彼女は先方の感情にこだわることなく、その後平気で、挨拶を続けることができるようにになった。そして五目に、「あの時は、すみませんでした」と微笑まじりに、はつきりわびることができたのだった。以来Tの態度はすっかりうち解けて、二人はしぐく仲のよい友達に変わってしまったのである。彼女はこうして失敗を償い、おまけに、人に対する好き嫌いがその後ずっとやわらいできて、上役からも重宝がられるように、仕事ぶりが変わってきたのだった。

以上は、ほんの日常茶飯事にす

ぎないことのようだが、人の一生には、もっと大きな問題で、やり直しを必要とする場合がある。このとき勇気をもつて、やり直し、関を開ける第一歩である。

編物をしている場合、たつた一目、表編と裏編とをまちがえて、そのまま何段か編んでしまった。気がついたときは、ほぐのが惜しいくて、まあまとそのままにして手をすすめてゆくと、できあがつたときに、ひとつだけ異った目が、目だって、へんなものになつてしまふ。あの時やり直せばよかつたのに、と、くやむのだが、今となつては、全部そこまでほどいてしまわなければならない。

問題は、実はこうした日常茶飯事にあるといつてもよい。今、編目をひと目まちがえた。すぐやり直そう……そのような気持で、小さなことでも、すぐやり直すようにしていることから、ふいに大きなことをやり直そうという勇気が、出て来るようになるのである。

\*『幸福の決め手』より（絶版）